

Ⅵ-11 新入生教育『スタディスキルズ』について(第2報)

高知工科大学 社会システム工学科 教育講師 フェロー会員 伊藤綱男

1. はじめに 高知工科大学では、平成15年度から新入生を対象とした講義『スタディスキルズ』(以下SSと称す)を開始した。本稿は、2年を経過したSSの実践結果についての報告である。本学は、来るべき社会に活躍できる技術者の育成を教育目標にしており、SSの講義は、大学で必要な学習の基礎学力の育成及び就職に至るまでの人間力を高める教育の第一歩として位置づけられている。

SSの目標は、自ら主体的かつ積極的に課題に取り組む、9つのスキル(読む、書く、話す、聴く、議論する、考える、疑問をもつ、調べる、発表する)を修得する、大学生活の意義と目的を見つけこれからの学習と社会に出るための心構えを持つとしている。演習を通じてこれらの達成を目指すものである。

2. SSの講義概要

1) 講義の枠組み 1クラス12名程度の少人数とし、1クオータ(1Q:4,5月の2ヶ月)10コマの講義であり、2Qでは同じ班構成で教員を替え実施した。

2) 教育講師 SSの開講と同時に、「教育講師制度」が昨年から発足した。教育講師は、大半が55歳前後で、企業での実務経験を生かし、SSのほかキャリアプランなどを担当している。現在12名在籍している。

3) 講義内容とテーマ 講義は、大学生活の目標、自己紹介文の書き方、レポート作成、図書館の利用方法など大学生活での基本事項のほか、教員ごとに設定したテーマに従い、学生が自主的に調査し考えるなど演習に主体を置いている。筆者のテーマは、「町を歩き問題を発見し解決策を考える」である。そのねらいは、社会基盤施設の概要を把握させるとともに、現地調査の手法(現地、現物、現実を把握する)、また問題解決手法(解決に向けての改善の考え方や手順)の基本を身につけることにある。

学生はそれぞれに自分のテーマを自ら設定し取り組んだ。たとえば、道路景観、交通事故問題、河川環境、ごみ問題、地震防災対策、防災まちづくり、高知駅周辺土地地区画整理事業、県立美術館、森林環境税、商店街活性化などである。最終的にはレポートとして取りまとめ提出とした。

4) 講義方法 毎週、宿題を課し講義ではそれぞれ簡単な発表と個人別の指導を行った。タイムリーなアドバイスをすることに心がけた。毎回の発表により、自主的な取り組み姿勢を喚起させ、また達成感を感じさせることとした。2Q末の発表会ではパワーポイントによる発表とした。

3. 実施結果

1) 学生の受け止め方 受講生からのアンケートでは、「おおむね満足」との結果を得ている。スキルの向上では、発表力がついた、問題解決方法などが身についたなどの回答も見られた。SSを通じての友人づくりなどのコミュニケーションの向上も見られた。

2) 学生による自己評価 9つのスキルの評価を4,6,8月の3時点で同じ人にアンケートを試みた。図-1は各時点での各スキルごとの差分(スキル獲得値)を示す。前回の記入結果を参照していないにもかかわらず値が増加していることは、平均してスキルを獲得した学生が多いことがわかる。書く、話す、発表する、議論する、調査するの4つのスキルがとくに目立っている。値は4段階での差分であり、アンケート回答者数397名の平均である。

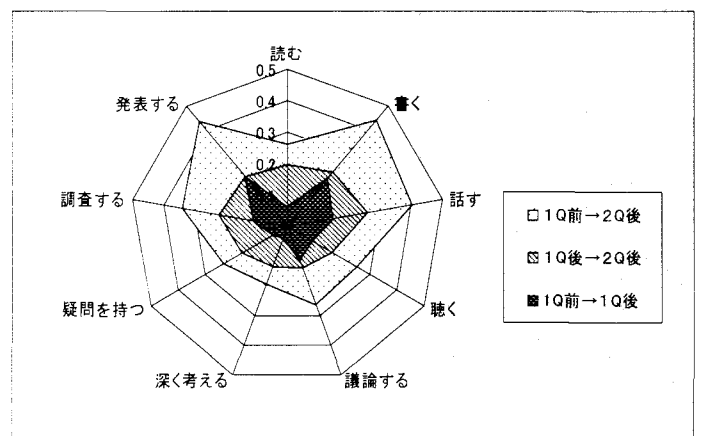


図-1 9つのSSスキルについての学生の自己評価の平均

3)改善が必要な点 今後は学生個人に対してさらにその対応を綿密に行うことが必要となる。これは、教員と学生個々との密なるコミュニケーションから生まれる。このため個人カルテやデータベース作成も徐々に行っている。またSSのテーマに関して、いかに興味を持たせ、関心を抱かせるかについて、さらに具体的な方法を検討する必要がある。

4)過年度生からの評価 昨年度履修した学生へのアンケートを図-2, 3に示す。SS受講後約1年半を経た時点での評価である。向上したと思われる能力としては、調べる、発表する、考える、書く、話す能力となっている。またSSが役に立った点は何かにについては、「大学生活に慣れる、友人づくり、教員に親しむ」にかなりの効果があると思われる。

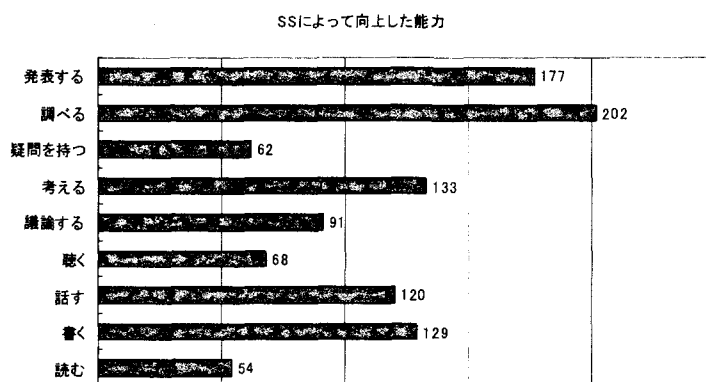


図-2 SSによって向上したと考える能力

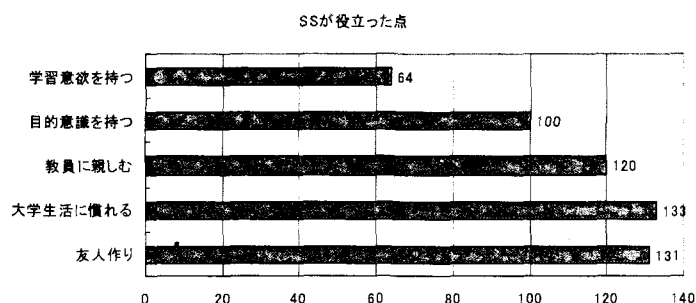


図-3 SSが役に立った点

4. SS2の開講 本年度からSSを落とした者、履修しなかった者を対象に後期にSS2を開講した。SSへの再挑戦である。対象者は全体で45名(約9%)、そのうちの履修者は32名、合格者は22名であった。集中講義として実施し、学生と教員とのコミュニケーションを深めるよう心がけた。学生からの反応は、最後までやり通し、達成感を学ぶことができたとの感想であった。

5. 特色GPシンポジウム スタディスキルズを含む本学の「学生の多様化に対応した実践的技術者の育成～生徒から学生、そして社会人への成長をサポート～」の取り組みが平成16年度の文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムに採択された。その一環として高校、大学、企業からの関係者の参加を得、2月18日に新入生教育をテーマにシンポジウムを開催した。他大学での実践事例を含め、実社会で必要なコミュニケーション能力や人間力をいかに育成するかなど、また高大連携、産学連携等について活発な討論が行われた。

6. 今後の課題 SS実施上の課題としては、①スキルの内容の見直し ②より効果的な講義方法の工夫 ③学生個人へのきめ細かい個別対応方法 ④不活発学生への対応 ⑤成績評価基準の見直し ⑥教育効果の測定手法の検討 ⑦体系的なSS構築などがありそれぞれ改善検討が必要となる。

7. おわりに 2007年問題(大学全入時代の到来)は、より一層多様な学生を大学に迎えることとなる。新入生教育は大学にとってますます重要な課題と思われる。また企業からは、より「質の高い学生」を要望されている。2つの狭間で大学の教育力が問われている。基礎学力に加え、基礎生活力、コミュニケーション能力、問題に対処できる力を持った人材を育成することが求められている。実社会で生き抜く力、耐力ある人間形成を図っていくことが望まれており、新入生教育はその第1歩となる。

SSの講義はこれらの視点を踏まえ更なる進化を図っていく必要があり、究極の面倒見のいい大学への一翼を担うこととしたい。本稿を作成するにあたっては、坂本明雄教授(工学部長)、河田耕一教授(就職センター長)及び同僚の教育講師の方々に多くのご支援を頂きました。厚く感謝申し上げます。

参考文献 高知工科大学教育講師室; 2004年度スタディスキルズ実施報告書 2005/2/10